

高等教育機関として初めて国内認証スキームにもとづく
ISO 29990 学習サービス認証を取得

学校法人 有坂中央学園 中央情報経理専門学校



学校法人有坂中央学園 中央情報経理専門学校様は、ISO 29990 の規格開発や認証スキームの開発に当たって、専修学校等を経営する学校法人として積極的に情報提供いただいた学習サービス事業者です。今回、中央情報経理専門学校様がどのような取り組みを経て認証取得に至ったのかという経緯と、その効果について、ISO 29990 の認証取得に向けた取り組みの責任者である学校法人有坂中央学園常務理事の中島慎太郎様と中央情報経理専門学校教務部長の中村高広様、ISO 推進事務局を兼務されている学園本部総務課長の小池宏尚様にお話を伺いました。

ーはじめに、今回 ISO 29990 認証の取得に取り組まれることになった経緯をお聞かせください。

中島常務理事：当学園では、これまで ISO 9001（品質マネジメントシステム）の認証を取得し、PDCA をしっかり回すことで教育の質を高めるということに取り組んでまいりました。当校（中央情報経理専門学校）は 2001 年に高等教育機関として国内で初めて ISO 9001 認証を取得しており、その後、中央工科デザイン専門学校や中央医療歯科専門学校でも認証を取得しました。専門学校は、大学に比べて職業実践的な色合いが強く、企業からの人材ニーズに敏感でなければなりません。当時、製造業や建設業などで ISO 9001 の認証取得に取り組む企業が多くあり、品質管理や質の向上に効果的だと伺いました。マネジメントを対象としているので、製造業であっても教育であっても共通する部分があり、特に PDCA をしっかり回すことができるようになったことは組織としての強みだと思っています。

ー今回の ISO 29990 認証取得にあたって「PDCA をしっかり回す」ということは、役立ったのではないですか？

中島常務理事：そうですね。今回、ISO 29990 という教育向けの国際規格ができたというこ

とで認証取得に取り組みましたが、これまで ISO 9001 で取り組んできたことを活かすことができました。ISO 29990 は 3 章と 4 章が中心になっていますが、特に 4 章の「学習サービス事業者のマネジメント」については、PDCA をしっかり回してきた経験を活かすことができましたと思います。



<写真>有坂中央学園 常務理事 中島慎太郎様

ーでは、特に 4 章の部分については、難なくクリアできたわけですね。

中村教務部長：そうですね。全てがそのまま活用できたという訳ではありませんが、会議の議事録や是正報告の在り方など、学校の組織運営、いわゆるマネジメントについては、ほとんどの部分が、これまでに蓄えてきたノ

ウハウで対応できました。しかし、4.6 で取り上げられている「講師のコンピテンシー」については、苦勞しました。今回、良い機会でしたので、教職員の人事考課についても見直し、教職員研修とも連携させて、管理側と教職員側とが同じ評価軸を使えるように工夫しました。

これは3章の「学習サービス」でより特徴的ですが、教育というものをどう捉えるかというところが、これまで私たちが考えてきたこととマッチしていて、「初めての取組み」であったものの、既視感というか、しっくりくる、腑に落ちるところが多かったですね。



<写真>中央情報経理 教務部長 中村高広様

—今回、審査を受けて、良かったと感じた点がありましたら、教えてください。

中島常務理事:「学習サービスの質」というところを評価していただくということでしたので、正直なところ、少し身構えていました。専門学校というのは、職業実践的な教育を行っている学校で、その目的としては、「仕事ができる人材を育成する」ということになります。学校の「質」を表す指標の一つとして「就職率」があります。私たちの学園グループでは、卒業生の就職率100%を目指し、2012年度は97.1%を達成しました。ここ数年、就職

難といわれていますが、例年95%以上の高い就職率を達成しております。しかし、就職率さえ良ければ「質の高い教育」であると言い切れるかということ、それは少し違和感があります。

資格試験への合格率についても同様です。それぞれの学科コースで、それぞれの仕事に役立つ資格を積極的に取得させていますが、合格率が高いことだけで教育の質を評価することには、やはり違和感があります。

私たちの教育の目的は、「経済社会の一員を養成すること」、すなわち「仕事ができる人材を育成すること」です。「就職させること」や「資格を取得させること」を指標の一つにはしていますが、それだけでは足りません。就職したものの、一年足らずで辞めてしまったり、たくさんの資格を取得したもののコミュニケーション力が不足して仕事ができなかったり、というのでは、目的を達成できていないと言わざるを得ないからです。

こうした力を学生につけさせる「仕掛け」として、学園では「歩行ラリー」や「学園祭」、1学年の総まとめとして行う「フィールドワーク」等、様々な行事をおこなっています。今回、審査の過程で、こうした当学園の取り組みについて、「学習サービスの質を向上させる取り組み」として評価していただきました。これまでも、もちろん教育効果を考えながら行事に取り組んできましたが、ISO 29990という枠組みを使って見直すことで、それらの活動の価値が高まり、かつ、わかりやすくなったと思っています。

—審査という活動が、学習サービスの質の向上に役立てられたのであれば幸いです。ところで、先ほどのお話の中に、「学園祭」という行事が挙げられていましたが、何か特別な取り組みをされているのですか？

中村教務部長：当学園グループの学園祭では、模擬店ごとに収益を競わせています。当校の建学精神は「経理と情報は経営に通ず」です。経理・簿記を学んでいる学生だけでなく、ITや医療秘書、保育を学んでいる学生にとっても、経理と情報管理は「仕事ができる人材」になるために必須の素養だと考えています。それを実践で養う場として、学園祭を使っています。模擬店で収益を上げるためには、売上げの予測をして、仕入れを計画しなければなりません。多く仕入れ過ぎれば、当然売れ残ってしまいますし、反対に少なすぎれば、販売機会の損失により、利益がでません。模擬店での販売では、商品をつくる担当者もいれば、売る担当者もいますし、全体を統括する者もいます。模擬店という、商売の一形態を使って、収益の上げ方やチームワークなどを実践的に学ばせています。

一なるほど。学習サービスの質を評価する時には、就職率や資格取得合格率のように数値化されている指標だけではなく、様々な観点からの評価が必要だということですね。

中村教務部長：はい。それぞれの行事は、経験を通して、個々の学生に力をつけさせるという取り組みですが、専門学校の役割を「就職させること」や「資格を取得させること」と狭く捉えてしまっただけでは、これらの行事の価値を正しく評価することができません。ISO 29990 認証の取得に向けた活動によって、自分たちの学校が行っている教育の目的「仕事ができる人材を育成する」というものを、改めて捉えなおすことができたことが、本当の意味での成果だったのではないかと考えています。

一ありがとうございます。小池様、現場でしくみづくりやエビデンスの整理に携われた立場から、ご意見をいただけますか？

小池課長：私は推進役として、内部監査員養成セミナーなどにも参加しました。研修会は、事例も学習サービスに特化したもので、わかりやすかったですし、また、現場に戻ってから役立つ内容のものが多かったです。自分自身が研修で学んだことを、今後の教職員に対する研修会で活用できそうだと感じています。ISO への対応ということも別にしても、教育に関して必要な文書や記録を、教育活動のエビデンスとして整理し、管理しなければなりません。そのためには、それらのルール、実際の運用手順などを教職員の皆さんに理解してもらわなければならないわけですが、ISO 29990 は学校での取り組みを評価する枠組みとして、現場の教職員にも理解しやすい形だと思います。



<写真>有坂中央学園 総務課長 小池宏尚様

一ありがとうございました。認証を取得されてから一年以上が経ちましたが、周りからの反響といたしますか、反応はいかがでしょう？

中島常務理事：正直なところ、ISO 29990 の認知度はまだまだ低いのだと思います。高校生はもちろんのこと、高校の先生方や保護者の方々にも浸透しているとはいえません。こ

の認知度を高めることについては、認証機関の方々や関係団体の皆様に、ぜひとも頑張っていただき、認知度が高まることを期待しております。

最近、専門学校をとりまく環境が変化し始めていると感じています。以前にも増して、教育の質保証や質の向上についての議論が多くなされるようになってきました。自己・点検評価や第三者評価が、必須の取組みになりつつあります。こうした状況の中、当学園が行った国際規格に基づく第三者評価への取り組みは、注目を集めています。

一先行して ISO 29990 認証を取得なされた学校として、他の学校や企業・団体の方々にアドバイスをいただきたいのですが。

中島常務理事：認証を取得し、これから定期審査、更新審査を受けながら、教育の質の向上に努めたいと思います。認証に至るまでの審査でも、多くの気づきを得ることができましたが、今後の定期審査や更新審査でも、また多くの気づきを与えていただけるものと期待しております。

学園がこうした審査を定期的に受けることは、私たちが人間ドックを受診することと同じようなものだと考えています。日頃から、

自分たちなりに、教育の質を向上させることに取り組んでいます。第三者の視点で見えていただくことで、気づかされることも少なくありません。今後、私たちの業界でも、グローバル化が進むでしょう。大学のライバルが大学だけではなくなったように、専門学校のライバルも多様な教育機関になるかもしれません。国際的な競争環境も成長しつつあります。多くの専門学校や企業・団体の方々に、ぜひ ISO 29990 認証を取得していただき、公平・公正な競争環境をつくり、この業界と一緒に盛り上げていただきたいと思います。

一本日は、どうもありがとうございました。



国内認証スキームにもとづく ISO 29990 に関するお問い合わせは・・・

JAMOTE 認証サービス株式会社

〒104-0033 東京都中央区新川 2-1-11 八重洲第一パークビル 4F

TEL: 03-6228-3445 FAX: 03-6228-3447

E-mail: info@jamotec.co.jp <http://www.jamotec.co.jp>